オヴァランダース（1946）

THE OVERLANDERS

メディア 映画
ジャンル
製作国 オーストラリア／イギリス
色彩 B&W
時間 91分
初公開日 1948/10/26
公開情報 ＢＣＦＣ＝ＮＣＣ

【解説】

“国土が武器”という広大なオーストラリアの抗日戦の裏面史を綴った作品だが、これが本場ハリウッドのそれとは大分趣を変えたウエスタンとして存外に楽しめる。４３年、北部の空襲も激しくなり、ある精肉会社にも閉鎖の命が下ったが、主任のダンは、昔、軍に志願したとき、係官に言われた“牛は弾より貴重”をモットーに、千頭の牛を僅かの仲間と安全な南部に運ぼうと出発。すぐに、家を焼き払って逃げる途中の牧場主一家と合流し、ロンドン－モスクワ間と等距離というキャトル・ドライヴが始まる。それはまさに本物だけが持つ迫力に充ちており、仲間割れでその分の馬がいなくなると、野性馬を捕獲し調教しようなどという描写は、アメリカ西部劇にも見られない。猛暑の中せっかく辿り着いた水場が沼地で、牛をいっぺんに寄せつけないよう気を配っている所、一陣の風に水の匂いを嗅ぎつけた牛どもが暴走する場面もリアルですごい迫力。クロコダイルのいる川を渡るシーンは少し作為が先立つが、それだってよく撮れている。白眉は、水がいよいよ涸れたとみての近道の峠越えで、断崖絶壁をそろりそろり、かなりの数の牛を本当に歩かせてスリルを生み、圧巻。そして、なんと八ヶ月をかけ、５３頭の損失だけで無事目的地に到着した一行は一躍、国民的英雄となり、再び北上する飛行機に乗ると、後へ続け－－と多数の牛追いの風景が眼下にみえるのである。製作は一連のサスペンス映画で知られるバルコンで、監督は記録映画出身のワット。両者の持ち味がうまく噛みあった秀作だ。

【クレジット】

監督	ハリー・ワット	Harry Watt
製作	マイケル・バルコン	Michael Balcon
出演	チップス・ラファティ	Chips Rafferty
	ダフネ・キャンベル	
	ジョン・ファーンサイド	
	ジーン・ブルー	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.